

立沢里山

平成24年7月28日
里山新聞 第26号

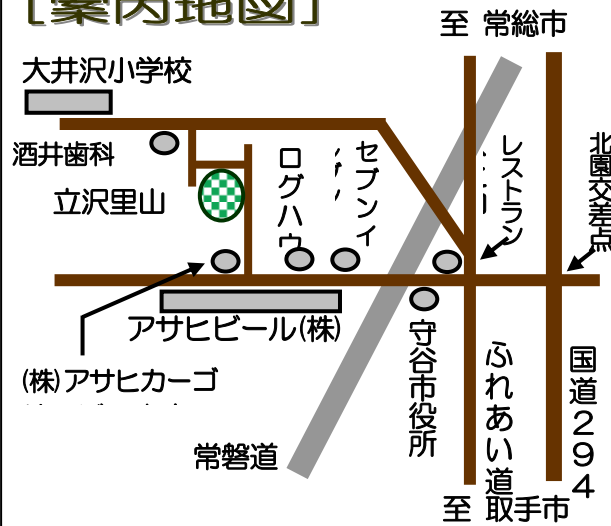
発行：立沢里山の会 代表 鈴木 榮
問い合わせ先：事務担当
須賀（守谷市役所内 45-111 内線 351）
立沢里山ホームページ
<http://www.geocities.jp/tatuzawasatoyama/>

～目次～

- 1 「田んぼの学校」の田植
- 2 松前台小学校へ出前授業
- 3 アサヒビール平成24年度環境基金授与
- 4 御前山環境センターが立沢里山視察
- 5 草取りと自然観察会
- 6 松前台小学校2年生が里山体験学習

ボランティア募集
あなたも一緒に楽しみましょ！

【案内地図】



「立沢里山新聞」の記事をお願いします
denen21@hb.tp1.jp 清野

1 「田んぼの学校」の田植

今年は5月15日（火）に恒例の「田んぼの学校」の田植を予定していましたが、残念ながら雨天で翌日に延期となりました。16日（水）は一転して快晴、暑いぐらいの陽気となりました。

9時過ぎから御所が丘、松前台、大井沢の各学校の小学5年生約200名が徒歩で里山の田んぼに到着しました。里山の会としては、今年は9年目の稲作となりますが、子供達は毎年新5年生なので、ほとんどの子供達が初めての体験です。

一通り説明は聞いても実際に田んぼに入ってからが大変です。最初はなかなか田んぼに入れない子もいましたが、徐々に慣れてくると歓声が上がります。

昔から田植は女性が中心の作業と言われていますが、やはり子供達でも同じようで、女の子の方が丁寧に植えて早く進むようです。男の子は泥んこ遊びのほうに興味が行くようです。

靴が脱げてしまったり、全身ずぶぬれになったりと様々でしたが、子供達の声がかき合う中で田植作業は順調に進みました。最後に楽しかったかな？！との問いかけに皆元気に手を挙げて応えてくれました。

秋になって収穫できるまで時々遊びにきてほしいですね。



田植え風景

開会集合



海老原農委会長挨拶



3 小学校合同で田植え 守谷 5年生200人が体験

守谷市立沢の水田で16日、市内3小学校合同の田植えが行われた。荒れ放題だった農地を、水田としてよみがえらせた「立沢里山の会」（鈴木榮会長）が主催。児童らは貴重な水を確保しながらの活動。江戸時代の技法「上総掘り」による井戸水で、田植えに必要な水を確保しながらの活動。江戸時代の技法「上総掘り」による井戸水で、田植えに必要な水を確保しながらの活動。



合同田植えは今年で9回目になる。参加したのは、市立大井沢、松前台、御所ヶ丘小の5年生約200人。手作りの「田んぼの学校」と記した幕を掲げた水田で、作業の説明を受けた後、早速田植えに挑戦。会員の指導で苗を植え付けた児童らは、水田の感触を楽しみながら「おいしい米ができたね」と話し合っていた。秋には、収穫した米で飯（う炊き）などを開くという。

秋の収穫を期待して苗を植え付ける児童ら。守谷市立沢



皆に助けられて脱出



里山の会スタッフ



2 松前台小学校へ出前授業

5月16日（水）に3校による田植えが無事終了したところですが、田植えの経験を踏まえてもう少し詳しく「お米と田んぼ」について勉強したいと、松前台小学校から「立沢里山の会」に講演依頼がありました。

そこでちょうど1週間後の23日（水）出前授業を行いました。小学5年生の2クラス合同で約70名を対象に10時40分から約1時間、資料説明やパワーポイントを活用し、「お米と田んぼの仕組み、里山の自然、生物多様性」などについて解りやすく話をしました。

一週間前に立沢里山の田んぼで田植の体験をしたばかりなので、顔も解り、皆実感をもって聞いてくれました。

稲の生長について、なかには、そうだったのかとうなづきながらの感想もありました。

古代米（黒米、赤米、緑米）の見本も配布したので、米にはいつも食べている白米以外に様々な種類があることを知りました。

ちょうど学校開放日で父兄の方も大勢参観に来ており、変わった授業と興味を持って聞いてもらいました。

また、校長先生との意見交換で、父兄同伴でなければ校区外へ遊びに行くことは制限されているとのことでした。大井沢以外の小学校については、立沢里山で土日の自然観察会を行う場合は実施方法を検討する必要があるようです。

出前授業：講師は清野



3 アサヒビール平成24年度環境基金授与

基金授与



昨年度アサヒビールの環境基金を授与され、池の木道橋の架け替えを行ったところですが、今年も連続して立沢里山の会に授与されることになりました。5月7日(月)午後2時からアサヒビール工場内の事務棟応接室で贈呈式が行われ、新任の工場長から鈴木会長に手渡されました。その後、ホタルビオトープの管理問題など種々意見交換を行いました。今年は5万円ほどですが、貴重な財源なので対外的にも説明しやすい具体的な活用方法を検討しましょう。

4 御前山環境センターが里山視察

平成22年10月に立沢里山の会として視察旅行にいった県北の「御前山ビオトープ」の関係者の皆さん約30名が、バスで5月25日(金)午後に立沢里山の視察に訪れました。県自然博物館で開催中の「植物たちのSOS、絶滅危惧種」の企画展に協力しており、自然博物館の視察と併せて近隣の「立沢里山」を現場視察することになったものです。御前山は村全体が里山そのものですが、ちょうど新築した木道橋や池など、身近で親しみやすい環境や、街中の里山に皆さん興味を持ってみていただきました。

御前山の皆さん



田んぼの草取り



で、今後の生育が楽しみです。作業の合間に小川で小魚を捕獲し、水槽に展示して皆で観察しました。皆が興味しんしんで、タモを片手に川に入って魚とりが始まりました。メダカやドジョウの外、ザリガニ、カエルなども沢山採れて大騒ぎです。やはり子供達には自然の中で遊ぶのが一番楽しいようです。作業が一段落して、陽が昇り暑くなってきたので、

5 草取りと自然観察会

6月23日(土)里山田んぼの草取りを行いました。今回は各小学校から田植えを行った5年生の子供達も先生と一緒に大勢参加してくれました。当日は晴天になり、皆かつて知った田んぼなので、元気に田んぼに入り草抜き作業を行いました。稲も順調に成育し、草取りや畦の補修も行ったの

タモで魚とり



「立沢里山の会」からアイスクリームのサービスです。草取り後の遊びの時間の方が長くなりましたが、お昼近くなったので閉会としました。ところが遊びに夢中になって、なかなか帰りがりません。中には、友達と相談して午後からまた出直す約束をしたグループもありました。



各学校：先生も一緒に



6 松前台小学校2年生が里山体験

7月10日(火)松前台小学校の2年生、3クラス約70数名が立沢里山の体験でやってきました。午前9時頃徒歩で皆が到着した頃は、かなり暑い天候状態でした。今回は低学年ということもあり、小川の合流地点近くの木の下の日陰にシートを敷いて休憩スペースを確保しました。長靴に履き替えて、里山の会から挨拶や注意事項などの説明のあと、早速クラスごとにザリガニ釣りを始めました。最初は皆恐る恐る割り箸の竿につけた紐の先にスルメを縛りつけて垂らします。最初の子供が釣り上げると歓声が沸き上がり、あちこちで大騒ぎになりました。男の子はタモを持って川に入りますが、なかなかすくえないようです。一時間ほどで各自一匹以上は釣れたようでした。最後に合流点に集合して笹舟流しをしました。里山周辺には残念ながらクマザサが見当たらず、急遽周辺にあるヨシの葉を採取して「ヨシ舟」を作成しました。笹に較べてヨシは細長いので小学2年生には難しかったかもしれませんが、出来た順番に流してみました。皆笑顔で楽しそうでした。小学校の低学年は本当にかわいいですね!! 最後に小川や湧水で手足を洗い、ザリガニやメダカ、ドジョウなどが沢山入ったバケツを重そうに持って元気に帰りました。

木道に勢ぞろい



ザリガニが釣れた瞬間



笹舟(ヨシ舟)

